

アジアが世界の物流の要所に

羽田空港が昨年10月に新国際線ターミナルをオープンしたのは記憶に新しいところ。24時間営業化、江戸の町並を再現した「江戸小路」と名付けられた商業施設の開設など、ハブ（国際拠点）空港を目指して様々な取り組みを打ち出しています。羽田空港が新国際線ターミナルをオープンしたことで、成長著しい北京（中国）や仁川（韓国）をはじめとする空港との「アジアのハブ空港」をめぐる覇権争いが激化しています。

世界の空港運営会社などが組織する国際空港評議会（ACI）によると、2009年の世界の空港の貨物取扱量ランキングで10位までにアジア勢が4空港入るなど、大躍進を遂げています。ちなみに空港満足度ランキングでも、トップ3は仁川（韓国）、香港（中国）、チャンギ（シンガポール）とアジア勢が独占しているようです。

空だけでなく、海でもアジア勢はめざましい躍進をみせています。国土交通省が発表した2008年の世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキングによると、1位シンガポール、2位上海、3位香港など、アジア勢が上位10港をほぼ独占しました。

アジアの物流が活発化している背景には、韓国、マレーシアなどを中心としたアジア諸国の輸出拡大、また中国、インド、インドネシアなど多くの人口を抱える国における個人消費の伸びなどがあげられます。今後もアジア諸国の堅調な経済成長が予想される中で、アジアは世界の物流の要所として存在感を高めていくことでしょう。

世界の空港の貨物取扱量ランキング(2009年)

1位  メンフィス(米国)	11位  シンガポール(シンガポール)
2位  香港(中国)	12位  マイアミ(米国)
3位  上海(中国)	13位  ロサンゼルス(米国)
4位  仁川(韓国)	14位  北京(中国)
5位  パリ(フランス)	15位  台北(台湾)
6位  アンカレッジ(米国)	16位  ロンドン(イギリス)
7位  ルイビル(米国)	17位  アムステルダム(オランダ)
8位  ドバイ(アラブ首長国連邦)	18位  ニューヨーク(米国)
9位  フランクフルト(ドイツ)	19位  シカゴ(米国)
10位  成田(日本)	20位  バンコク(タイ)

(出所) 2009年 国際空港評議会 (ACI)

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社において入手した信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、(I)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、(II)弊社の書面による許可なく再配布することを禁じます。<審査番号:TK11010100>

© 2011 Goldman Sachs. All rights reserved.